

教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課
〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL (354)-8283 (代) FAX (359)-0280



ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>

これからの特別支援教育

教育支援課 大原 喜教

平成19年度から本格実施となった特別支援教育も、開始から6年目を迎えています。各学校・園や地域における体制整備も進み、一人一人の教育的ニーズに合った支援が行われるようになってきました。様々な研修会や情報メデイア等を通じて、発達障害に関する知識は、教職員や保護者の中に浸透してきたものの、具体的な指導内容や支援方法、組織的な取組等の実践は十分とは言えず、更なる充実が期待されます。

特別支援教育に移行される以前から、障害児学級（現在の特別支援学級）に在籍する児童生徒数が年々増加する傾向が見られましたが、特別支援教育になってからは、一層増加に拍車がかかっています。中でも、通常学級から特別支援学級や特別支援学校への転籍・転学希望者の増加が著し

く、昨年度は市内の小・中学校で合計46人の転籍・転学がありました。こうした傾向は全国的にみられ、児童生徒数が減少する一方で、特別支援教育の対象となる児童生徒数は年々増加しています。

中央教育審議会初等中等教育分科会「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」は、7月に「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」を発表しました。この中で、「特別支援教育は、共生社会の形成に向けて、インクルーシブ教育システム構築のために必要不可欠なものである」とし、今後の基本的な方向性を示すとともに、そのための環境整備の必要性について言及しています。また、「合理的配慮」という新しい概念が示され、就学相談・就学先決定の在り

方についても、見直しを図ることを示唆しています。

特別支援教育は「一人一人のニーズに応じた適切な指導及び支援を行うもの」であり、「すべての教育の場において行うもの」であるという基本理念を再確認し、今後の方向性を見極めながら、ユニバーサルデザインとしての特別支援教育を推進していく必要があります。



学び合おう。職場で、研修会で！

夏季教職員研修へのご参加ありがとうございました！

この夏、研修に参加された先生の人数は、5000人を越えました。たくさんのご参加、本当にありがとうございました。

2学期は1年の中でも一番充実した時期。1学期の振り返りから、**修正を図り**、研修での学びを自分の**実践に活用**していきましょう。

研修プログラム

- | | | |
|-------|-------------------------|-------------|
| Step1 | 「 気づき 」のステップ | ～自分を知らう～ |
| Step2 | 「 選択と判断 」のステップ | ～取組計画を立てよう～ |
| Step3 | 「 行動 」のステップ | ～他から学ぼう～ |
| Step4 | 「 経験 」のステップ | ～実践しよう～ |
| Step5 | 「 振り返りと内省 」のステップ | ～振り返ろう～ |



同僚性を意識して、数多くの「学び合い」を生み出そう

～授業を見よう・授業を見せよう～


研究授業だけでなく、普段の授業を見合うことで、授業改善が日常化していきます。各職場で、気軽に授業を見合うことができる同僚性を育てましょう。

また、「若手教員研修」の「授業研究」として、小学校ではブロック別に授業を通じた実践交流研修（5校）をしています。昨年度は、若手教員研修対象者以外の先生方にもご参加いただき、充実した研修になりました。今年度もたくさんのご参加をお待ちしています。

さらに、今年度からは中学校若手教員研修の必修講座として、教科別に実践交流研修（9教科）を予定しています。教科の特質を踏まえた研修だけでなく、教科の枠を超え、日頃の疑問や課題を出し合い、互いに学び合う場としていきましょう。

～ミドルリーダーを中心に学校をマネジメントしよう～

「ミドルリーダー教員研修」対象者の方は、すでにミドル・アップダウン・マネジメントを実践されていると思います。2学期は、さらに実践を進め、高める時期です。比較的簡単に取り組み、効果が期待できることから、まだやっていないことを始めてみましょう。職場のみなさんを巻き込みながら、自分のできるところからチャレンジです。



トップダウンでもボトムアップでもなく、ミドルリーダーが行動することで、学校が変わっていきます。



この夏の講座でお招きした先生の新刊やリクエスト本を購入しました。四日市市教育センターHP 教育情報データベースから四日市総合会館6階図書室の蔵書をご覧になることができます。（四日市市立校・園からのみ閲覧可能）貸し出しもしておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

重点課題研究推進校 中間研究発表

平成24年8月10日(金)に重点課題研究推進校として2年目となる浜田小学校と中部西小学校による中間研究発表会が開催されました。

浜田小学校

於:勤労者・市民交流センター 多目的ホール

【研究主題】 「学び手である子どもに寄り添い子どもの瞳が輝く授業をしよう！
～『聴き合う つなぐ 学び合う 深まる』授業を取り入れる～」

【助言者】 東海国語教育を学ぶ会 石井 順治 先生



「寄り添う教育」をモットーとした、子どもの目線に立った授業改革の取り組みについて研究発表がありました。音楽の授業の中で、子どもたちが互いの思いや考えを交流し合いながら曲を創りあげる姿が映像を通して紹介されたほか、日常の学級の様子、教師同士の連携について発表されました。

石井先生からは、教師の課題提示の大切さ、子どもたちのかかわり合い、考えと考えの擦り合わせから学びが生まれることなどの助言をいただきました。また、これからの時代を生きるために必要とされる力や、すべての子どもの学びを保証する、学ぶ魅力を実現するなど学校教育に課せられることについてもご講演いただきました。



中部西小学校

於:総合会館 第1研修室

【研究主題】 「自分の思いや考えをもち、学び合う子どもの育成」

【助言者】 三重大学附属特別支援学校 山田 賢治 先生

人とかかわりを重視した授業づくりの取り組みについての研究発表がありました。「学び合い」とは、学校は「学ぶ場」であるという特性を、授業の中に意図的、計画的に設定し、「個」の学びを育てることであると捉えており、その実践紹介として、子どもたちが積極的にグループや個で前に出て歌う様子や教師の課題提示場面など映像を交えながら発表されました。助言者の山田先生からは、学び合いのある授業づくりのためには、子どもたちの実態把握、子どもたちが「できた」と思える授業をすることなどの助言をいただきました。また、「人とかかわる力」を育む授業づくりとして、機会の保障、既存の関係の活用、意欲の充実、スキルの獲得の4点についてご講演いただきました。

平成24年度 重点課題研究推進校の実践発表日程

学校	日程	時間	会場	内容
笹川中学校	10月12日(金)	13:30-17:00	笹川中学校	授業研究会, 事後検討会
大谷台小学校	11月27日(火)	8:30-16:00	大谷台小学校	授業研究会, 示範授業, 講演会
中部西小学校	11月30日(金)	14:00-17:00	中部西小学校	授業研究会, 事後検討会, 研究総括発表会
浜田小学校	12月4日(火)	10:00-17:00	浜田小学校	授業研究会, 事後検討会, 研究総括発表会

相談支援ファイルの効果的な活用を！！

相談支援ファイルは、子どもと保護者、そしてそれぞれの関係機関をつなぐツールです。各園・学校では、作成した相談支援ファイルの効果的な活用をお願いします。

相談支援ファイルがあると 子どもたちは、自分にあった支援をスムーズに受けられます



すべてを話さなくても伝えられます

「学童に通うことになり、相談支援ファイルを読んでもらいました。すべてを話さなくても、幼いころのエピソードを知ってもらうことができました。」(保護者)



共通理解を深めます

「保護者と話し合ったことを、その場で記入してもらいました。いっしょによりよい支援を考え、子どもへの共通理解が深まりました。」(担任)



支援のポイントがわかります

「レポートファイルには、好きな遊びやパニックになったときの関わり方などが書いてありました。あらかじめ読んでおいたので、初めて訪れる子どもの支援のポイントを知らることができ、落ち着いて過ごしてもらうことができました。」(デイサービス職員)



引継ぎで役立ちます

「転勤してすぐ支援学級の担任に。入学してくる1年生のことを聞き取る時間がなく入学式を向かえましたが、支援ファイルを読んでおいたので、その子にあった支援をすることができました。」(担任)



個別の指導計画(No4, 5)は、全部記入しなければいけないの??



すべてを記入する必要はありません。次の担当者に役立つ情報(特徴的なエピソード・効果的な支援の方法・トラブルを予防する方法など)を書き込んでおきましょう。初めて関わる者は、とても参考になります。

特に通常学級籍の子どもたちの指導計画については、支援が必要な部分に絞って長期目標を立てると、分かりやすいものになります。

